アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

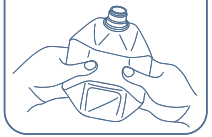
500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

<調剤包装単位用コード>

<販売包装単位用コード>

使用後、フィルムをはがしてキャップをはずした後、空容器を図のようにして折り目を外側に押しつぶして下さい。
（つぶした後は元に戻りません。）



プラ
キャップ：PP
ボトル：PE
ラベル：PET

MARUISHI

開封日　　年　　月　　日

500mL

外用殺菌消毒剤

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

Acrinol Disinfectant Solution 0.1%「Maruishi」

0.1w/v%

製造番号

使用期限

製造販売元
㊧ 丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

2014年9月改訂（第2版）	
日本標準商品分類番号	872619
承認番号	21900AMX00792
薬価収載	2007年6月
販売開始	2007年6月
再評価結果	1983年4月

貯　　法：遮光し、室温保存
使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）
注　　意：衣類、流し等に付着すると黄色に変色し、脱色しにくくなるので、直ちに水で洗い流すなど注意すること。

●組成・性状

1.組成
100mL中
アクリノール水和物0.1g（0.1w/v%）含有。

2.性状
黄色澄明な液である。

●効能・効果　●用法・用量

効能・効果	用法・用量	希釈倍数
化膿局所の消毒 泌尿器・産婦人科術中術後、化膿性疾患（せつ、よう、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎）	0.05～0.2%の液として使用する。	本品を1～2倍に希釈して用いる。
口腔領域における化膿局所の消毒	0.05～0.1%の液で含嗽する。	本品を1～2倍に希釈して用いる。

500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

●使用上の注意

1.副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
皮　膚 注1)	潰瘍、壊死、塗布部の疼痛・発赤・腫脹等
過敏症 注2)	過敏症状

注1）このような症状があらわれた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。
注2）このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2.適用上の注意
外用にのみ使用し、内服しないこと。

500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

JAN 4 987211 101565

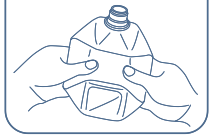
GS1-RSS (01)14987211101562

<販売包装単位用コード>

(01)04987211201562

<調剤包装単位用コード>

使用後、フィルムをはがしてキャップをはずした後、空容器を図のようにして折り目を外側に押しつぶして下さい。
（つぶした後は元に戻りません。）



プラ
キャップ：PP
ボトル：PE
ラベル：PET

MARUISHI

500mL

外用殺菌消毒剤

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

Acrinol Disinfectant Solution 0.1%「Maruishi」

0.1w/v%

製造番号

使用期限

製造販売元
㊧ 丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2

500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

2012年1月作成（第1版）	
日本標準商品分類番号	872619
承認番号	21900AMX00792
薬価収載	2007年6月
販売開始	2007年6月
再評価結果	1983年4月

貯　　法：遮光し、室温保存
使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）
注　　意：衣類、流し等に付着すると黄色に変色し、脱色しにくくなるので、直ちに水で洗い流すなど注意すること。

●組成・性状

1.組成
100mL中
アクリノール水和物0.1g（0.1w/v%）含有。

2.性状
黄色澄明な液である。

●効能・効果　●用法・用量

効能・効果	用法・用量	希釈倍数
化膿局所の消毒 泌尿器・産婦人科術中術後、化膿性疾患（せつ、よう、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎）	0.05～0.2%の液として使用する。	本品を1～2倍に希釈して用いる。
口腔領域における化膿局所の消毒	0.05～0.1%の液で含嗽する。	本品を1～2倍に希釈して用いる。

500mL

アクリノール消毒用液0.1%「マルイシ」

●使用上の注意

1.副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
皮　膚 注1)	潰瘍、壊死、塗布部の疼痛・発赤・腫脹等
過敏症 注2)	過敏症状

注1)このような症状があらわれた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。
注2)このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2.適用上の注意
外用にのみ使用し、内服しないこと。